



【次期学習指導要領のポイント】

**高学年の外国語科（英語）年間 70 単位時間を確保。45 分に 15 分を加えた 60 分授業の設定を含め、各校で時間割編成。
「読むこと」「書くこと」は態度を育てることをねらう。**

この度の中教審「審議のまとめ」において、小学校の外国語教育では以下のような枠組みが示されています。時間の確保、短時間学習、「読むこと」「書くこと」という新しい指導内容、指導者の問題など、課題も多くあるなか、4年後の全面実施に向け、現場での準備も求められています。

●高学年：教科型として年間 70 単位時間を実施、教科書を使用

- 時間数：現在 年間 35 単位時間（週 1 コマ） → **70 単位時間 週あたり 2 コマへ（倍増）**
※増加する 35 単位時間分については、15 分程度の短時間学習や、45 分に 15 分を加えた、まとまりのある 60 分授業の設定等、各校で柔軟な時間割編成を行う。検定教科書を使用。
- 内容：現在「聞くこと」「話すこと」が中心 → **「読むこと」「書くこと」も含めた教科型となる。**
※「聞くこと」「話すこと」は「～できるようになること」が求められるようになる。新たに加わる「読むこと」「書くこと」は、「①アルファベットの文字や単語などの認識、②国語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴への気づき、③語順の違いなど文構造への気づき」等を促す指導に必要な時間を確保。積極的に英語を読もうとしたり書こうとしたりする**態度を育てる**ことがねらい。
- 指導者：学級担任が専門性を高めて指導、併せて専科指導を行う教員、ALT 等を積極的に活用。

小学校高学年の目標案：◎外国語のコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、コミュニケーションの目的を理解し、見通しを持って目的を実現するための言語活動を通して、聞いたり話したりするとともに、読んだり書いたりすることに慣れ親しませ、コミュニケーション能力の基礎となる資質・能力を、次のとおり育成を目指す。（※編集部注：以下の各目標①は知識・技能、②は思考・判断・表現力等 ③学びに向かう力・人間性という、育成すべき資質・能力の3つの観点と重なる）

- ①外国語を通じて、言語の働きや役割などを理解し、読んだり書いたりして外国語の文字、単語、語順などに慣れ親しませるとともに、外国語の音声、語彙・表現を聞いたり話したりする実際のコミュニケーションの場面において活用できる基本的な技能を身に付けるようにする。
- ②外国語を通じて、身近で簡単なことについて、文字・単語などを読んだり語順に気付きながら書いたりするとともに、聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う基礎的な力を養う。
- ③外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、相手に配慮しながら外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

●中学年：新たに年間 35 単位時間の外国語活動を導入

- 時間数：年間 35 単位時間の外国語活動を実施。短時間学習は活用せず、柔軟な時間割編成を行う。
- 内容：現状の高学年での外国語活動と同様で、**聞いたり話したりすることが中心。**
- 指導者：主に学級担任が ALT 等をいっそう積極的に活用し、**TT を中心とした指導**を行う。

●中教審「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」は以下に掲載されています。

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/1377051.htm